



活動説明の様子



干潟での生き物観察

#### 2018.07.07 水際ごみ拾い・ハマエビ杯

参加人数 54 人で、水際線ゴミ拾い、潮入りの池の生き物調査として手長エビ釣り大会を行いました。今月は幸ヶ谷小学校や新しくできたみなとみらい本町小学校の子供たちも沢山参加してくれ、賑やかな愛護会活動となりました。ゴミ拾いでは、大勢が一斉にゴミを拾い、あっという間にゴミがなくなりました。

手長エビ釣り大会では、昨年は一匹しかつれませんでした。今年は大漁で、初めて潮入りの池に入る子供たちも始めはおっかなびっくりでしたが、手長エビが発見できると集中力アップで次々と釣り上げていました。最大のテナガエビは、20センチ、最多は、一人で4匹釣り上げていました。



参加者一同での記念写真と活動の様子

水質調査結果 (2018.7.7)

場所	水深 (m)	水温(°C)	塩分	DO (mg/L)	COD (mg/L)
運河 表層	0.5	24.8	<5	6.8	10
運河 底層	2	25.2	25.5	3.6	5
潮入りの池(大)	0.5	26.3	<5	6.2	5
潮入りの池(小)	0.5	27	14	9.8	5

2018.09.01 水際ごみ拾い・生き物観察会

参加人数 21 人で、水際線ゴミ拾い、干潟の生き物観察会を行いました。いつもよりゴミが多めで花火やペット、缶、ビン、レジ袋が沢山捨てられていました。生き物探しでは、日本メダカが沢山観られました。他にもチチブやベンケイガニ、ハゼの稚魚なども観察できました。今回は幸ヶ谷小学校、みなとみらい本町小学校、和泉小学校と 3 つの学校の仲間が参加してくれました。



参加者一同での記念写真



ゴミ収集状況



観察されたニホンメダカ（観察後に再放流）

#### 2018.10.6 ハマハゼ杯練習会

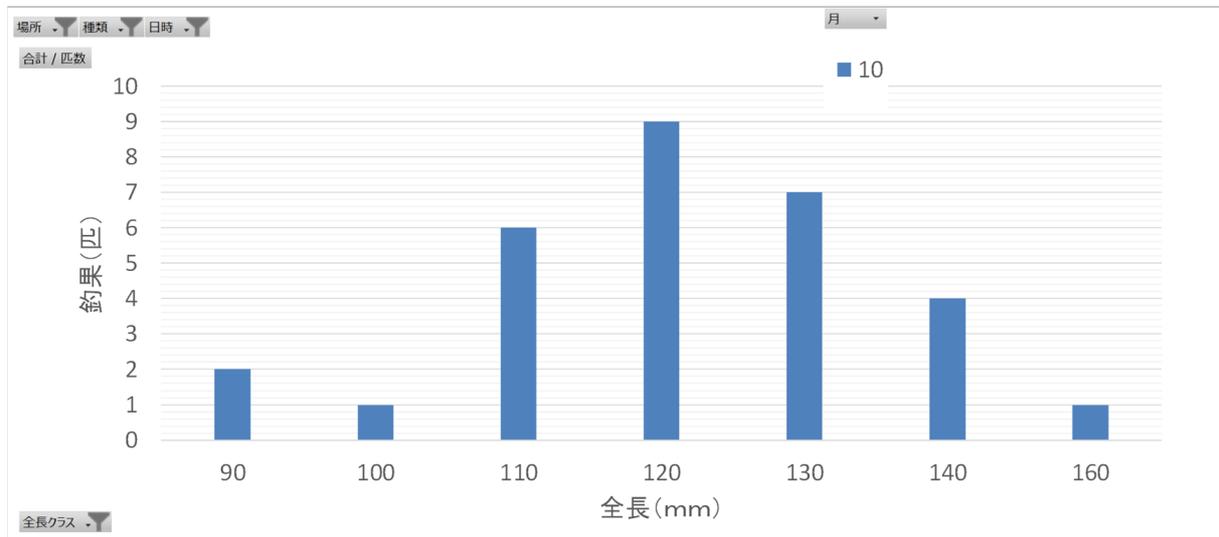
参加人数 48 名、公園清掃、干潟調査（ゴカイ掘り）の後、マハゼを対象とした釣り調査を実施しました。マハゼは最大で、15.9 cm、平均で 12.1 cm でした。



参加者一同での記念写真



潮入りの池（小）での釣り調査状況



マハゼの全長分布 (2018.10.6)

河川および潮入りの池で水質調査を行いました。河川底層や大型の潮入りの池では DO が不足気味でしたが、小型の潮入りの池の環境は概ね良好でした。

水質調査結果 (2018.10.6)

場所	水深 (m)	水温(°C)	塩分	DO (mg/L)	COD (mg/L)
運河 表層	0.5	22.3	23.5	3.8	10
運河 底層	2	22	5	5	5
潮入りの池(大)	0.5	22.8	7	2.6	13
潮入りの池(小)	0.7	22	7	4.4	10

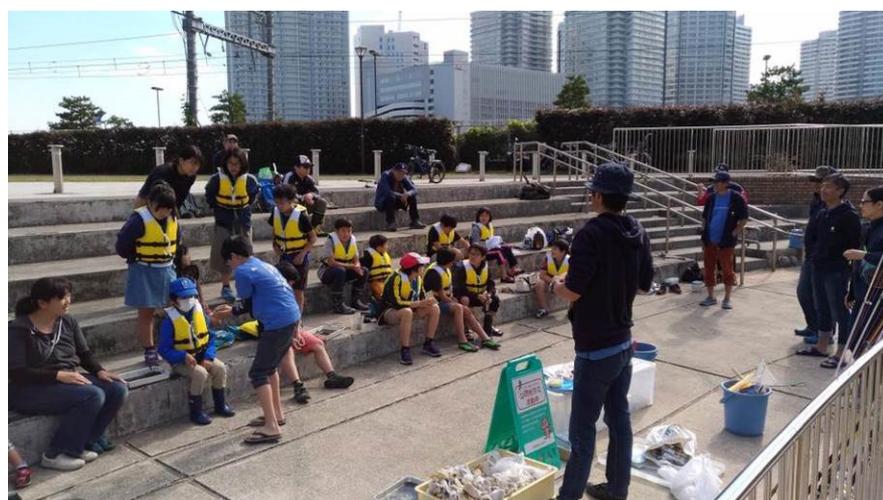
## 2018.11.03 ハマハゼ杯

参加人数 33 名、公園清掃、干潟調査（ゴカイ掘り）の後、マハゼを対象とした釣り調査を実施。最大で 17 cm、最多で 1 人 11 匹の釣果がありました。

今回はマハゼを中心に、チチブ、ボラの釣果があり、マハゼの習性を考え、仕掛けの工夫をした参加者の釣果が良かったようです。干潟調査では、エサに使用しようと目論んでいたゴカイがあまり獲れませんでした。



参加者一同での記念写真



釣り調査前の趣旨説明、生き物説明



干潟調査



釣り調査風景

## イベントレポート②

主催機関	イベント名
新日鐵住金(株) 君津製鐵所	環境講演会

### 【イベント概要】

千葉県環境生活部大気保全課の北橋伸一氏を講師にお招きして、君津製鐵所の直営・協力会社の社員約 170 名を対象に「千葉県における大気環境行政について」というテーマで環境講演会を開催しました。

### 【開催時期】

平成 30 年 6 月 8 日

### 【場所】

君津製鐵所本館コミュニケーションホール

### 【主なイベント内容】

千葉県行政の大気環境に関する取り組み状況について、以下の内容をご紹介いただきました。

1. 千葉県の大気環境については環境基準の確保・維持に向けて、主に監視、緊急時対応、発生源対策の施策を実施している。
2. 千葉県の環境基準達成状況は多くの環境基準項目で 100 % 達成しているが、光化学オキシダントは達成率 0%、PM2.5 は達成率 97.6 % で課題がある。また、平成 29 年度に臨海部地域で高濃度の有害大気汚染物質を観測しており、今後実態調査を実施する計画をしている。
3. 自動車排ガスに関する大防法や条例での規制も進めており、千葉県では率先して電気自動車、水素自動車を導入した。
4. 千葉県は温室効果ガスの排出量に対し、都道府県別の大気汚染物質排出量は少なく、大気環境に関する取り組みが進んでいる。
5. 今後は PM2.5 等の新しい指標に関する規制についても、国の動向を注視しながら検討していく。

以上の取り組みなどにより、今後も千葉県の大気環境改善に取り組んでいくことを強調されていました。



### イベントレポート③

主催機関	イベント名
キッコーマン株式会社 環境部	鉢植え配布（排水処理設備から排出された汚泥から製造した「有機入り肥料」で育てた植物（鉢植え）を配布。 配布先 野田・流山地区在籍のキッコーマングループ全社員 野田市商工会議所（野田市花の会） 野田市商店街連合会 野田市立清水台小学校 野田市役所 環境保全課

#### 【イベント概要】

野田・流山地区の排水処理設備から排出された汚泥から製造した「有機入り肥料」で育てた植物（鉢植え）を通して、事業活動で発生した汚泥が有効に再利用されていることを皆さんに実感して頂き、より環境（排水から循環）への関心を高めてもらうことを目標としています。

#### 【開催時期】

平成 30 年 6 月 25 日（月）

配布先：場所

野田市商工会議所（花の会）

野田市商店街連合会

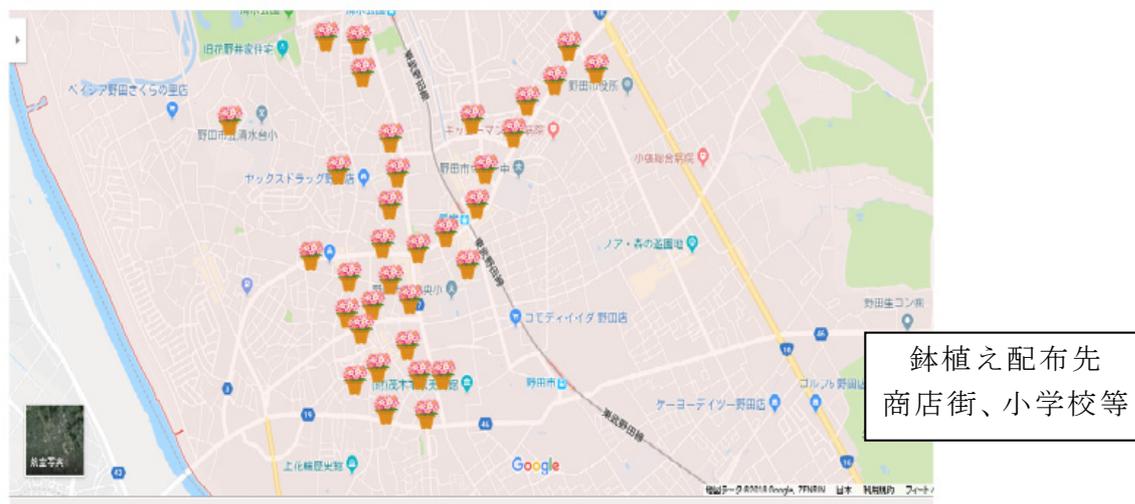
野田市清水台小学校

野田市役所 環境保全課

野田・流山地区在籍のキッコーマングループ全社

#### 【主なイベント内容】

野田市商店街とタイアップして花のある商店街と排水への関心



イベント写真



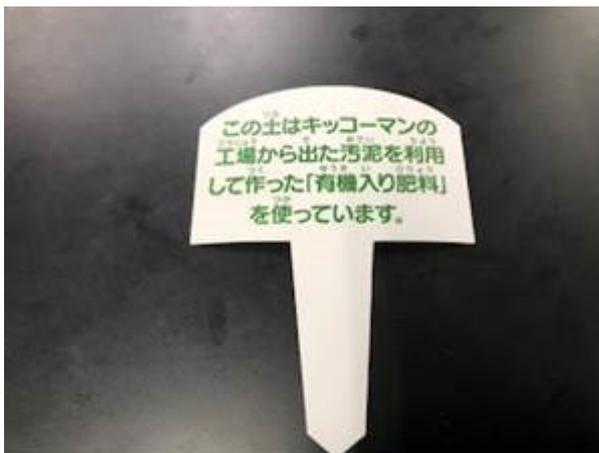
清水台小学校



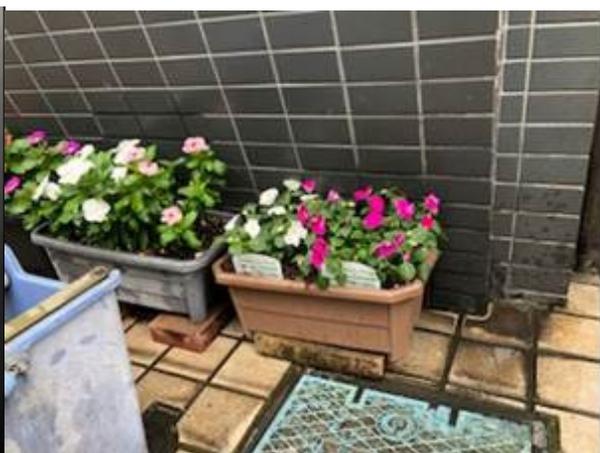
キッコーマン野田本社



キッコーマン環境部



鉢植え用ラベル



野田市商店街 店前

イベント写真

野田市商店街の様子



消防署前

## キッコーマンの環境活動



上記の説明図を各店舗に配布して排水から循環への関心を高めていただいています。

また、配布した鉢植えには、ラベルを表示して、商店街をご利用するお客様にも排水から循環している活動への関心を持っていただいています。

### 鉢植えを配布して、商店街の声

- ・この活動はとてもよいので、続けてください
- ・花をみて、キッコーマンに勤めているお客様が声をかけてくれるようになりました
- ・排水にも栄養があることを理解できました
- ・夏休みに孫の宿題になりました
- ・野田から出た排水が他県に渡り、形を変えてまた野田に帰ってくるのは素晴らしい
- ・来年は、実を収穫できる苗木にしてください
- ・醤油で発酵、肥料で再発酵、町で発光
- ・今年は特に暑いので、毎日、水やりが大変だけど、生き物を大切にする気持ちが大きくなりました
- ・特に肥料も加えないのに、花がきれいに咲きました
- ・ホームセンターで購入した花より、元気がよいです・キッコーマンは、花で商売しても大丈夫
- ・もっと目立つラベルにして下さい
- ・川に流れる下水は、きれいに流したい
- ・水循環は、次の人への思いやりが大切なんだなと、お客様と会話しました

#### イベントレポート④

主催機関	イベント名
株式会社日本触媒 川崎製造所 (千鳥工場)	2018年度 環境大会

#### 【イベント概要】

自製造所で従業員、協力会社を対象に環境大会を開催し、約 134 名の参加があった。

#### 【開催時期】

平成 30 年 6 月 27 日

#### 【場所】

自社（川崎製造所千鳥工場）

#### 【主なイベント内容】

従業員及び協力会社を対象に事業所環境負荷量の推移や環境行政動向等について説明を実施した。

## イベントレポート⑤

主催機関	イベント名
株式会社日本触媒 川崎製造所 (浮島工場)	2018年度 環境大会

### 【イベント概要】

自製造所で従業員、協力会社を対象に環境大会を開催し、約 134 名の参加があった。

### 【開催時期】

平成 30 年 6 月 27 日

### 【場所】

自社（川崎製造所千鳥工場）

### 【主なイベント内容】

従業員及び協力会社を対象に事業所環境負荷量の推移や環境行政動向等について説明を実施した。

## イベントレポート⑥

主催機関	イベント名
新日鐵住金(株) 君津製鐵所	構外道路清掃

### 【イベント概要】

君津製鐵所及び協力会社社員約 620 名が参加し、製鐵所沿い国道 16 号の歩道を中心に約 14km に亘って道路清掃を実施しました。

### 【開催時期】

平成 30 年 6 月 28 日

### 【場所】

君津製鐵所沿いの国道 16 号及び近傍道路の歩道約 14 km

### 【主なイベント内容】

環境月間活動の一環として 6 月 28 日、約 620 人の所員および関連協力会社社員が参加して、今年で 38 年目（通算 48 回目）となる君津製鐵所周辺と国道 16 号線沿いの清掃活動を行いました。例年よりも清掃距離を拡大して約 14 キロメートルにわたり、紙などの可燃物、空き缶、空き瓶などを回収し、周辺の環境美化と所員の環境意識の高揚を図りました。なお、昨年秋から構外道路清掃を定期的を実施してきた効果もあり、今年のごみ回収量は合計 245 キロと、昨年より少ない結果となりました。また、今回から各センター周辺の環境美化活動も実施し、こちらも約 710 人が参加し全所を挙げての活動に発展させました。

《今年度のごみ回収実績》

可燃物	180 kg (350)
不燃物	20 kg (20)
缶	30 kg (40)
ビン	10 kg (10)
プラスチック類	5 kg (10)
合計	245 kg(430)

( )内は前年度実績







## イベントレポート⑨

主催機関	イベント名
DEXTE-K	西なぎさ発：東京里海エイド

### 【イベント概要】

漂着ごみのクリーンアップとミニ自然観察会（一般市民と企業参加の協働）

協働：葛西海浜公園サービスセンター

後援：NPO 法人／荒川クリーンエイド・フォーラム、NPO 法人／えどがわエコセンター

助成金：TOTO 水環境基金、セブン-イレブン記念財団公募助成

### 【場所】

葛西海浜公園／西なぎさ

### 【開催時期】

平成 30 年 7 月 21 日（土）

### 【主なイベント内容】

- ・漂着ごみのクリーンアップ
- ・参加人数：45 名（内子ども：12 名）
- ・収集した漂着ごみ総数：45 リットルゴミ袋×19 袋、粗大ごみ：1（危険ごみ／使い捨てライター：18、ルアー：8、粗大ごみ／標識下地木材：1）
- ・MX TV 取材あり



【開催時期】

平成 30 年 8 月 18 日（土）

【主なイベント内容】

- ・ 漂着ごみのクリーンアップ
- ・ 参加人数：72 名（内子ども：12 名）
- ・ 収集した漂着ごみ総数：45 リットルゴミ袋×19 袋、粗大ごみ：12  
（危険ごみ／使い捨てライター：34、ルアー：5、注射器：4、スプレー缶・カセットボンベ：3、粗大ごみ／バケツ類：5、プラケース：2、角材：1、看板：1、その他：3）



【開催時期】

平成 30 年 9 月 8 日（土）

【主なイベント内容】

- ・ 漂着ごみのクリーンアップ
- ・ 参加人数：35 名（内子ども：2 名）
- ・ 収集した漂着ごみ総数：45 リットルゴミ袋×29 袋、粗大ごみ：8  
（危険ごみ／使い捨てライター：53、ルアー：10、注射器：3、スプレー缶・カセットボンベ：2、粗大ごみ／バケツ類：2、プラケース：1、植木鉢：1、角材（釘つき）：1、塔婆：1、塩ビ管：2）



【開催時期】

平成 30 年 10 月 20 日（土）

【主なイベント内容】

- ・漂着ごみのクリーンアップ
- ・参加人数：70 名（内子ども：4 名）
- ・収集した漂着ごみ総数：45 リットルゴミ袋×28 袋。粗大ごみ：8  
（危険ごみ／使い捨てライター：36、ルアー：8、注射器：4、スプレー缶・カセットボンベ：2）
- 粗大ごみ／ヘルメット：1、プラスチック衣装ケース：2、ポリタンク：1、大型園芸用品：3、テントの杭：1、塔婆：1、断熱材：2、発泡スチロール箱：1、その他：2）
- ・えどがわエコセンターお気がる講座共催



【開催時期】

平成 30 年 10 月 28 日（日）

【主なイベント内容】

- ・漂着ごみのクリーンアップ
- ・参加人数：45 名（内子ども：5 名）
- ・収集した漂着ごみ総数：45 リットルゴミ袋×31 袋、粗大ごみ：15  
（危険ごみ／使い捨てライター：29、スプレー缶・カセットボンベ：3、注射器：2、ルアー：1、粗大ごみ／プラケース：2、プランターボックス：1、植木鉢：2、材木・角材：3、断熱材：4、発泡スチロール箱：1、その他：2）



## イベントレポート⑩

主催機関	イベント名
浦安三番瀬を大切にする会	三番瀬ミニクリーンアップ

### 【イベント概要】

地域の中学生・高校生を対象に、三番瀬のゴミ清掃および生物調査（アサリ）を実施しました。

### 【開催時期】

平成 30 年 7 月 29 日

### 【場所】

浦安市浦安海岸日の出

### 【主なイベント内容】

中学生 7 人、高校生 8 人およびスタッフ 6 名程度で、ゴミ拾い、アサリわくわく調査を実施しました。アサリわくわく調査の結果は、別途報告される予定です。1 グループ 2-3 名で調査し、最小 8 個体から最大 117 個体の計測を行い、全部で 200 個体を超えるアサリの殻長を計測しました。

今年の調査は、スタッフが少なかったため写真を撮る余裕がありませんでした。採取したアサリの測定・ソーティングは、三番瀬沿の入船北小学校が浦安市まちづくり活動プラザをお借りし実施しました。



調査前の説明



調査中の様子



計測中

イベントレポート⑪

主催機関	イベント名
東京湾をよくするために行動する会	下記参照

東京湾をよくするために行動する会 環境啓発活動等のイベント実施結果と予定

開催場所	実施日	イベント名 (活動内容)	実施結果
横浜・柴漁港	7月29日 (日)	アマモ種子選別会	金沢八景－東京湾アマモ場再生会議との共催で実施されました。
幕張	10月8日 (月)	エコメッセ2018 in ちば (会の活動の情報展示)	「東京湾の環境をよくするために行動する会」で実施しました。 
横浜・柴漁港	11月10日 (土)	アマモ苗床づくり・タネねまき	金沢八景－東京湾アマモ場再生会議との共催で実施されました。 

<p>都立つばさ総合高等学校</p>	<p>11月23日 (金)</p>	<p>第15回高校生環境サミット(会の活動の情報展示)</p>	<p>東京都立つばさ高等学校において開催された「第15回高校生環境サミット」にパネル出展し、パネルを用いて「東京湾の環境をよくするために行動する会」の活動情報をPRしました。</p> 
<p>横浜臨港パーク</p>	<p>11月24日 (土)</p>	<p>夢ワカメワークショップ(種付け)</p>	<p>横浜の臨港パークにおいて開催された「夢ワカメワークショップ」に共催し、「横浜の海をワカメを育てることできれいにする」といった取組における種付けに参加しました。</p>  

## イベントレポート⑫

主催機関	イベント名
川崎市環境総合研究所	夏休み環境科学教室 「私たちの暮らしと東京湾の水質を考える」

### 【イベント概要】

小学4年生～中学3年生とその保護者を対象に、船に乗って川崎を海から見学してもらおうとともに、海のプランクトンを顕微鏡で観察し、東京湾の水質について学びました。

### 【開催時期】

平成30年8月3日（金）

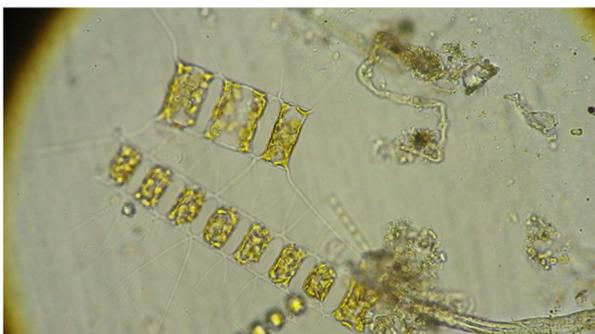
### 【場所】

川崎港及び川崎市環境総合研究所

### 【実施内容】

小学4年生～中学3年生とその保護者41名が参加し、川崎市港湾局の巡視船「あおぞら」で川崎を海から見学をした後、実際にプランクトンネットで海水のプランクトンを採取し、川崎市環境総合研究所で顕微鏡を用いて観察をしました。

参加者は、岸由二先生（慶応義塾大学名誉教授）から、赤潮や青潮に関するお話を聞き、赤潮の原因となるプランクトンの種類や対策方法など、東京湾の水質について学ぶことができました。また、大気や水質の調査・研究を行う研究所の施設見学も併せて行いました。



## イベントレポート⑬

主催機関	イベント名
公益財団法人 日本海事科学振興財団 船の科学館	おさかなまるごとウォッチング in えこっくる江東

### 【活動の目的】

身近な海の生物を題材に、五感を使った体験的な学習を通して、海の生物について理解を深めるとともに、私たちと海とのつながりについて興味・関心を喚起することを目的としました。

### 【実施日】

平成 30 年 8 月 3 日（木）

1 回目 10：30～12：00

2 回目 13：30～15：00

### 【開催場所】

江東区環境情報学習館 えこっくる江東

### 【参加人数】

30 名

### 【実施内容】

煮干し（カタクチイワシ）を題材に、魚のヒレの名前や役割について副教材を使いながら説明した後、実際に煮干しを使って体の内部の様子を観察し、主要な器官について解説をすることで、魚の体の仕組みへの理解を深めてもらえた。その後、煮干しの胃の内容物を顕微鏡で観察し、プランクトンなどを観ることが出来たことから、海食物連鎖を解説するとともに近年の海の状況としてマイクロプラスチックが増えていることと、生物にとっても人間にとっても解決が望まれる課題であることを説明し、海を守るために日々の生活の中でプラスチックを減らす取り組みを紹介しました。結果、煮干しを通して参加者の方の海や海を守る意識を啓発するきっかけとなった。

## イベントレポート⑭

主催機関	イベント名
NPO 法人東京港グリーンボランティア	干潟のカニを調べよう

- 【開催日】 平成30年8月11日（土） 天気 晴れ  
【開催時間】 10:30～12:30  
【開催場所】 ネイチャーセンター視聴覚室・前浜干潟  
【参加者数】 参加者 21名（定員30名）、ボランティア3名

### 【イベント概要】

前浜干潟の場所（崖・砂浜・礫干潟）でカニの種別個体数をコドラート法（50cm四方）で参加者と調査する。コドラート内のカニを全部捕まえて、種類別計数後リリース。NCにて集計。本年は東京湾一斉調査に位置付け。

### ※活動内容

- 10:30 ネイチャーセンター視聴覚室集合  
11:00～12:30 カニ調査  
・付着生物による水質改善実験（カキを投入し帰りに改善状況確認）  
・コメツキガニ砂団子による底質改善状況確認実験  
13:00～14:30 視聴覚室→ボランティアコーナーにて観察結果のふりかえり  
（時間超過のため13:15以降ボランティアコーナーで実施）

### ※活動写真



カクベンの崖での調査状況  
（土砂とゴミの堆積が著しかった）



ケフサの礫浜での調査状況  
（出現状況は昨年と同様であった）

アンケート回収 19 名：満足 12・やや満足 5・やや不満 1・無記入 1

やや不満の理由は、干潟にゴミが多かったため。

リピーター率 63 % 知った媒体;野鳥公園 HP68 %・行か 16 %・大田区報 5 %

#### 【備考】

##### ・良かった点

無事故、無苦情で終了できた。

高温対策（水分塩分補給をしつこく指示）のため熱中症を防げた。

集計時に時間が無く、丁寧な説明ができなかった

##### ・悪かった点

時間が大幅超過のため、ボランティアガイドスライドショーがずれ込んだ。

ボランティア不足でタイムキーパーが確保できなかった。

高温のため参加者の行動が緩慢で、移動等の時間がかかってしまった。

参加者に遅刻者が多く、開始時間が約 30 分程度遅れた。

(時間超過に対して参加者からの苦情はなかった)

##### ・次回への改善点

行事の時間をもっと長くとる（2 時間では不足。3 時間程度は必要）

遅刻者への対応。連絡済みの遅刻者対応で行事開始が 30 分程度遅れた。

運営側のタイムキーパーの配置

参加者の少ないスライドショーは小会場（1F 等）で実施してほしい

<カニの増減>カクベンの崖でカクベンケイガニ減少・タカノケフサ増加。ゴミや土砂の堆積のためと推定。土砂堆積は 拡張工事の影響も考えられる。その他の場所では大きな変化は見られず、工事の影響は軽微と考えられる。

## イベントレポート⑮

主催機関	イベント名
(公財)帆船日本丸記念財団	日本丸シーカヤック親子体験教室

### 【イベント概要】

子供たちにシーカヤックを体験してもらい、海の楽しさを知る機会を提供します。

### 【開催時期】

平成30年8月12日（日） 10:00～15:00

### 【場所】

日本丸メモリアルパーク内シーカヤックパーク

### 【主なイベント内容】

当日、4回に分けて横浜市内外の親子91人がシーカヤックを体験。初めて乗る子供たちに安全についてレクチャーし、その後漕ぎ方を指導し乗艇。自分でシーカヤックを動かすことに夢中で、横浜港の水辺を楽しんでいた。



## イベントレポート⑩

主催機関	イベント名
浦安水辺の会	親子ハゼ釣り調査 夏休みボランティア

### 【イベント概要】

水辺の活動に対する啓発も含め、親子釣り教室を実施し、釣果について記録しました。また、中学高校生を対象に、ボランティアとしてハゼ調査を実施しました。

### 【開催時期】

平成 30 年 7 月 28 日 親子ハゼ釣り調査（荒天のため中止）  
平成 30 年 8 月 25 日 夏休みボランティア  
平成 30 年 8 月 25 日 親子ハゼ釣り調査（7/28 の会を延期して実施）

### 【場所】

浦安市境川河口

### 【主なイベント内容】

7月の親子ハゼ釣り調査が荒天のため中止とせざるをえず、8月の夏休みボランティアと合同でハゼ釣り調査として実施しました。16名の参加で、2名ずつのグループを作り、グループ毎に計測をしました。1グループで最大36匹の釣果があり、最大は12cm、最小は6cm、平均は8.4cmでした。



調査前の説明



採捕されたハゼ

計測結果（速報）

名前	浦安水辺の会・ 中高生							
釣り日	2018.8.25(土)							
開始時間	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
終了時間	10:20	10:20	10:20	10:20	10:20	10:20	10:20	10:20
竿	2.1m・のべ竿							
しかけ	胴付							
はり	4号							
釣り場	高洲橋下左岸							
天気	晴れ							
気温	33℃	33℃	33℃	33℃	33℃	33℃	33℃	33℃
水温	28℃	28℃	28℃	28℃	28℃	28℃	28℃	28℃
全釣果	21匹/2人	36匹/2人	14匹/2人	18匹/2人	13匹/2人	14匹/2人	14匹/2人	32匹/2人
1	69	105	70	100	72	80	100	115
2	79	105	60	98	74	80	66	120
3	89	105	70	80	100	93	90	117
4	77	112	75	86	110	70	87	98
5	87	92	75	82	109	72	80	82
6	70	115	80	99	80	74	60	104
7	82	115	70	65	85	80	69	76
8	97	90	80	89	80	73		111
9	69	105	80	95	71	75		120
10	87	78	87	96	71	67		81
11	76	74	110	88	78	64		76
12	82	112	100	82	70	68		92
13	73	76	95	83	70	72		103
14	87	79	75	74		60		105
15	107	84		75				78
16	90	104		70				92
17	99	96		71				82
18	114	74		76				87
19	60	74						96
20	104	103						76
21	99	84						111
22		103						110
23		89						89
24		82						96
25		111						88
26		78						77
27		82						68
28		72						93
29		105						117
30		86						101
31		69						89
32		74						87
33		97						
34		82						
35		92						
36		68						
37								
38								
39								
40								
41								
42								

## イベントレポート⑱

主催機関	イベント名
JNC 石油化学（株） 市原製造所	「クリーンデー」

### 【イベント概要】

市原製造所内社員、協力会社員（約 700 名）による製造所周辺の清掃活動を行うものです。

### 【開催時期】

平成 30 年 9 月 5 日（水）

### 【場所】

JNC 石油化学（株）市原製造所周辺道路及び構内  
千葉県市原市五井海岸 5-1

### 【主なイベント内容】

市原製造所内社員、協力会社員（約 700 名）に製造所周辺の清掃箇所を割り当て製造所内全員参加による清掃活動を実施するものです。製造所敷地周辺は東京湾及び境川、養老川に囲まれており製造所周辺の清掃活動を通じて環境保全、水質保全等の貢献と社員及び協力会社社員への環境保全活動の重要性を認識させることを目的に実施しています。

### 写真

イベント「クリーンデー」の旗を掲げ準備し、製造所長、環境安全品質部長及び環境安全品質部員による協力のもと実施しました。製造所正門から周辺道路及び所内について清掃活動を実施し事務局にて分別回収を実施しました。当日は晴天でしたが台風の影響で強風にも負けず実施しました。



製造所内社員、協力会社員が参加して清掃活動開始。



製造所周辺道路を含めて清掃活動を実施しました。



清掃活動を実施してゴミを持ち帰り、事務局にて分別回収を実施しました。

## イベントレポート⑱

主催機関	イベント名
谷津干潟自然観察センター	えっさほいさゴミ拾い

### 【イベント概要】

一般市民、谷津干潟ジュニアレンジャー、谷津干潟で活動する学生を対象に谷津干潟内に入ってゴミ拾いを実施し、谷津干潟の保全について知ってもらいました。

### 【開催時期】

平成 30 年 9 月 24 日（月・祝）

### 【場所】

谷津干潟

### 【イベント報告】

100 名を超える参加者が集まり、干潟内のごみ拾いを実施しました。様々なゴミが見つかり、ビニールや紙といった小さなゴミから柵やテニスラケットのような変わったゴミも見つかりました。渡り鳥が多く飛来する場所としてゴミ拾いの意義を知ってもらうと共に、自分たちが身近な生活の中でできることを考えてもらいました。

### 【イベントの様子】



## イベントレポート⑱

主催機関	イベント名
官民連携フォーラム	東京湾大感謝祭 2018

■催 事 名：東京湾大感謝祭 2018

■会 期：2018年10月18日（木）、20日（土）～21日（日）  
10：00～17：00

※18日（木）は午後より東京湾シンポジウムのみ

※21日（日）は16時30分まで

■会 場：横浜赤レンガ倉庫広場、大さん橋  
横浜赤レンガ倉庫周辺海上  
（ピア象の鼻、赤レンガプロムナード、運河パーク、京浜港ドック）

■主 催：東京湾大感謝祭実行委員会

■共 催：国土交通省関東地方整備局 環境省 横浜市  
東京湾再生官民連携フォーラム  
（一財）みなと総合研究財団  
東京湾の環境をよくするために行動する会  
横浜港ボート天国推進連絡協議会

■後 援：東京湾再生推進会議 文部科学省 海上保安庁 水産庁  
国土交通省関東運輸局 （国研）海洋研究開発機構  
（国研）水産研究・教育機構 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県  
さいたま市 千葉市 川崎市 横須賀市 横浜港運協会  
（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー  
（一社）横浜港振興協会 FMヨコハマ 経団連自然保護協議会  
（公財）日本釣振興会 （一社）日本釣用品工業会  
（一社）日本マリン事業協会  
（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会 UMI協議会  
日本内航海運組合総連合会 （公財）海技教育財団  
（独）海技教育機構 （公社）日本水難救済会

■協 力：（一財）セブン-イレブン記念財団 横浜港ボート天国実行委員会  
都漁連内湾釣魚協議会 東京湾遊漁船業協同組合  
千葉県漁業協同組合連合会 神奈川県漁業協同組合連合会  
横浜市漁業協同組合 （公財）帆船日本丸記念財団

(株) 横浜八景島 マリンジャーナリスト会議  
日本釣りジャーナリスト協議会 下水道広報プラットフォーム (GKP)  
ヤマハ発動機 (株) (株) ロイヤルウイング  
(株) ポートサービス 京浜フェリーボート (株)  
(株) ケーエムシーコーポレーション (株) つり人社  
NPO 法人海辺つくり研究会 NPO 法人海の森・山の森事務局  
横浜 SUP 倶楽部 ハマの海を想う会

■天 候：2018年10月18日(木)曇、20日(土)晴、21日(土)晴

■来場者数：10万5千名／3日間

■出展者：全166小間／154社・団体

■広場ステージ：全29プログラムを実施

※主なプログラム：

オープニングセレモニー、海の学び場、  
BLUE CAMP ライブ、  
女子船員トークショー



■展示企画：全9企画を実施

東京湾再生、江戸前の恵み、東京ワンダー下水道、レジャー、WONDER ACTION CAFÉ&国際サンゴ礁年2018、江戸前キッチンカー、BLUE CAMP、ふるさと納税・恵み・くらしフェア、横浜フィッシングフェスティバル

■海上イベント：全10プログラムを実施

水上飛行機離着水、海の救助訓練、清掃兼油回収船べいくりんデモ、帆船みらいへ体験航海、親子ハゼ釣り教室、ボート・ヨット体験乗船会、インナーハーバーSUPレース、横浜クルーズ、本牧ガントリークレーン見学クルーズ、江戸前屋形船

■サテライト企画：京浜港ドック見学会&海の潜水士デモンストレーション

参加人数・469名

■大さん橋ホール同時開催：2018年10月18日(木) 東京湾シンポジウム

参加人数・273名

■広場展示同時開催：2018年10月20日(土) WONDER ACTION CAFÉ

参加人数・250名

※東京2020公認プログラム(持続可能性)

■取材：15社(テレビ2社、新聞6社、雑誌3社、その他4社)

## 11. 用語解説

表 11-1 水質指標について

項目	単位	説明	環境との関連
溶存酸素量 (DO)	mg/L	水中に溶けている酸素量のこと で、酸素供給（大気からの溶解 や植物プランクトンを含む藻類 による光合成など）と消費（有 機物の分解、生物の呼吸など） や移流・拡散のバランスを示し ます。水中に溶ける酸素量は水 温が高くなると減少し、水温 20℃の時に約 9 mg/L で飽和状 態となります。底層溶存酸素量 （底層 DO）とは海底から 1 m 以内の底層で測定された溶存酸 素量のことです。	貧酸素状態が続くと、好気性微生 物（酸素を必要とする生物）にか わって嫌気性微生物（酸素を必要 としない生物）が増殖するよう になります。嫌気性微生物の活動に より有機物の腐敗（還元・嫌氣的 分解）が起こり、メタンやアンモ ニア、有害な硫化水素が発生し、 悪臭の原因となります。また、溶 存酸素濃度が 3 mg/L を切ると魚 類を含めた多くの底生生物は生 息できなくなり、生物多様性が低 下します。
塩分	psu※	海水 1 kg 中に溶解している塩化 ナトリウムなどを主とした固形物 質の全量に相当します（絶対塩 分）。海水には非常に多くの物質が 溶け込んでおり、絶対塩分を直接 測定することは困難なので、精度 良く測定できる海水の電気伝導度 から換算式を用いて仮想の塩分 （実用塩分）を求める方法が一般 的です。 ※単位は実用塩分	海面を通じての降水量と蒸発量の 差や、河川水等による淡水流入の 影響で変化します。低塩分の海水 は密度が小さく、相対的に軽いた め、表層に低塩分水が分布すると、 底層と表層の海水が混ざりにく くなります。こうなると底層の水へ 酸素が供給されにくくなることか ら底層の貧酸素化に影響します。
①透明度 ②透視度	①m ②cm	どちらも水の清濁を表現するた めの指標です。①は直径 30 cm の白 色円盤（セッキー板）を水中に沈 め、水面から肉眼で確認できる限 界の深さをいい、②は透明な管に 試料を入れて上部から透視し、白 色の標識盤に書かれた印が初めて 明らかに確認できるときの水層の 高さをいいます。	①、②ともに値が大きいほど水が 澄んでいることを表します。主に ①は海や湖沼、②は河川や排水の 調査等で使用されます。一般的に、 水中に浮遊物質や生物が多くな ると値は低下します。 ダイビングにおいても透視度とい う用語を用いますが、これは水平 方向に見通せる距離を表したも のです。

項目	単位	説明	環境との関連
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	水中の有機物を酸化剤で化学的に酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、水中の有機物の分解に必要な酸素の量を表します。	湖沼・海域などの停滞性水域や藻類の繁殖する水域の有機汚濁の指標に用いられます。CODが高い状態が続くと、生物生息環境の多様性が低下し、魚類を含めた底生生物は生息できなくなります。
全窒素 (T-N)	mg/L	全窒素・全リンは、湖沼や内湾などの閉鎖性水域の富栄養化の指標として用いられています。水中では、窒素・リンは、硝酸・リン酸イオンなどの無機イオンや含窒素・含リン有機物として存在しており、ここで示す「全窒素・全リン」は、試料水中に含まれる窒素・リンの総量を測定した結果です。	窒素やリンは、植物の生育に不可欠なものですが、過剰な窒素やリンが内湾や湖に流入すると富栄養化が進み、植物プランクトンの異常増殖を引き起こすことがあります。そのため、湖沼におけるアオコや淡水赤潮の発生、内湾における赤潮発生の直接の原因となります。
全リン (T-P)	mg/L		
クロロフィル- <i>a</i>	μg/L	全ての藻類に含まれる光合成色素であることから、水中の植物プランクトン量の指標として用いられます。	

## ○水質汚濁現象について

### ・赤潮（水質指標キーワード：クロロフィル-a、pH）

水中に生存している植物プランクトン等が異常に増殖し、水の色が著しく変わる現象です。水の色は原因となるプランクトンの種によって異なり、赤褐色、茶褐色などの色を呈します。赤潮が発生する背景としては、窒素やリンの流入負荷量増加に伴う水域の富栄養化が原因のひとつと指摘されています。大量に発生した赤潮生物は死滅後、微生物によって分解される過程で大量の酸素を消費するため、貧酸素水塊の形成要因のひとつとされています。この他にも、毒性を持つプランクトンによる赤潮は、その水域の生物に直接的に被害を与えることがあります。



写真：千葉港内（平成15年8月11日）



写真：隅田川河口部（平成22年7月5日）

### ・青潮（水質指標キーワード：DO、底層DO）

富栄養化や有機物による水質汚濁の進んだ内海の底層では、大量発生したプランクトンの死骸が微生物に分解される過程で酸素が消費され、貧酸素水塊が形成されます。貧酸素水塊中では、底質中の硫黄化合物の還元が促進され、次第に水中への硫化水素の蓄積が進みます。このような水塊が風などによって表層まで湧き上がると、含まれていた硫化水素が酸素と反応して硫黄のコロイドを大量に生成します。コロイドは、太陽光を反射して海水を乳青色や乳白色に変色させます。青潮も赤潮と同様に水生生物の大量死を引き起こすなど、生物に被害を与えます。東京湾ではアサリの大量死が起こることもあります。



写真：羽田沖（平成16年8月18日）



写真：千葉港（平成23年8月30日）

・貧酸素水塊（水質指標キーワード：DO、底層DO）

生物に影響が及ぶほど酸素濃度の低い水塊。境界値についてはさまざまな指標がありますが、水産用水基準においては 4.3 mg/L が「底生生物の生息状況に変化を引き起こす臨界濃度」とされています。また、環境省が告示する生活環境の保全に関する環境基準において、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域の基準は 4.0 mg/L 以上、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域は 3.0 mg/L 以上とされています（詳しくは、<https://www.env.go.jp/kijun/mizu.html> をご覧ください）。

## 12. 問い合わせ先等

### (1) 問い合わせ先

本資料の内容や東京湾環境一斉調査についてのお問い合わせ・ご意見は、下記連絡先までお願いします。

- 東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局  
海上保安庁海洋情報部環境調査課 03-3595-3635  
環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室 03-5521-8319
- 九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会  
平成30年度事務局 さいたま市環境局環境共生部環境対策課 048-829-1331
- 東京湾岸自治体環境保全会議  
平成30年度事務局 東京都環境局自然環境部水環境課 03-5388-3459
- 東京湾再生官民連携フォーラム  
東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム 03-5157-5235

### (2) 情報掲載先

東京湾環境一斉調査の報告書は東京湾環境一斉調査ホームページに掲載しています。また、調査結果を分かり易くまとめた東京湾環境マップが、国土技術政策総合研究所 HP に掲載されています。

東京湾環境一斉調査の観測データは、東京湾環境情報センターから入手することができます。また、海上保安庁が運営する海洋台帳に水温・塩分・DO等の状況の図を掲載するよう調整中です（H.31年度掲載予定）。

- 東京湾環境一斉調査ホームページ  
[https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB\\_Renaissance/Monitoring/General\\_survey/index.htm](https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm)
- 国土技術政策総合研究所ホームページ（東京湾環境マップと事例集に関する情報）  
<http://www.ysk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kenkyu/map-sympo.html>
- 東京湾環境情報センター（国土交通省関東地方整備局港湾空港部横浜港湾空港技術調査事務所）  
<http://www.tbeic.go.jp/>
- 海洋台帳（海上保安庁海洋情報部）（※H.31年度掲載予定）  
<http://www.kaiyoudaichou.go.jp/>

### (参考)

- 東京湾再生推進会議ホームページ  
[https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB\\_Renaissance/index.html](https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html)